

農は國の基

生産者 消費者連携し 農の再構築を

あるお年寄りから
「百姓をやめたら、年金が余り始めた。」と聞きました。
過去一年間の国内における農産物価格は
ほとんどのものが下落しており、逆に農業資材は
例外なく値上がり、または高騰したようです。

食品加工メーカーは、コスト上昇を理由に相次いで値上げを行いました
農産物に対するコスト上昇分の販売価格への転嫁は
消費者の理解が得られないという理由で、放置された。
いや逆に下がったというのが現状です。

政府は十年後には食料自給率を
五十パーセントにするという目標を掲げました。
生産費が販売価格を上回る状況の中で
十年先を展望できる農家は存在するのでしょうか。

農・漁業合わせても、従事者のうち
六十五歳を越える人が六割を占める現状の中
今以上の生産力を維持することは可能なのでしょうか。

食料の安全性が注目され、GAPへの取り組みがなされようとしています。
反面、食の安全を脅かす事件は後を絶ちません。
農業者が食の安全安心への努力で築いた信頼は
一部の悪質な商人の利益至上主義のために損なわれています。

農業者の思いを込めた食料を
そのまま消費者へ届けるには、直売しかないのが現状です。
この方法での販売量には限界があります。
複雑化した流通システムには悪意が立ち入る隙が存在するかもしれません。

生産者は生きがいをもって、ものづくりに専念し
消費者は安心し、感謝して食べることの出来る仕組みを
再構築する時期が来ているのではないのでしょうか。